

WG活動計画概要：環境WG

一名護市の環境分野における課題とToBe像

As-Is

内部環境	Strengths (強み)	<ul style="list-style-type: none">● 二酸化炭素吸収先として豊富な森林地帯（やんばるの森）を有することから、脱炭素化を実現する上で有利な立地条件にある● 電力会社等との連携により、地域の脱炭素化と持続可能なまちづくりを進めていくための機運が高まっている
	Weaknesses (弱み)	<ul style="list-style-type: none">● 市内人口が増加トレンドであることや観光需要の高まりに伴い、民生家庭部門・民生業務部門ともにエネルギー使用量やGHG排出量の増加が想定される● 移動手段を自動車に依存していることや、観光客による交通量増加により、運輸部門のGHG排出量増加が想定される
外部環境	Opportunities (機会)	<ul style="list-style-type: none">● 化石燃料からグリーンエネルギー中心の社会構造転換に向けた構想が国によって公表され、脱炭素を実現する新産業技術（CCS*、CCUS**）への投資機運が高まっている● 循環型社会の構築に向けて、都市・地域レベルでの脱炭素化（カーボンニュートラル）に向けた取組みが活発化している
	Threats (脅威)	<ul style="list-style-type: none">● 排出量取引制度・炭素税等への対応が今後企業に求められる● 上場企業が取引先など供給網全体の排出量（スコープ3）を含めた情報開示が求められることで、今後取引のある中小企業も排出削減に向けた取組を求められる可能性がある

* CCS：Carbon dioxide Capture and Storage（二酸化炭素回収・貯留）

** CCUS：Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage（分離・貯留したCO2の利用）

ToBe

コンセプト

“やんばるの森”とともに、環境保全と経済活動が共存する循環型社会を目指したまちづくり

名護市の
関連計画で
整理された内容

- ① 廃棄物の減量化を含め循環型社会の実現を目指す
- ② 自然と都市が調和した環境にやさしいまちづくり

※①名護市循環型社会形成推進地域計画/②名護市地球温暖化対策実行計画

目指す状態

名護市全体



- ✓ 環境保全と経済活動のバランスが取れている状態
- ✓ 近隣市町村と連携の上、地域全体で循環型社会に向けた取組みが実現できている状態

市民/観光客



- ✓ 環境教育がなされるとともに、環境に配慮された取組みが意識されている状態
- ✓ 環境にやさしい交通移動がえらばれている状態

事業者



- ✓ 環境規制が自社ビジネスに与える影響を認識している状態
- ✓ 事業運営で発生するGHG排出量を把握した上で削減に向けた対策が打てている状態